

「月齢1の月を撮影する(3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

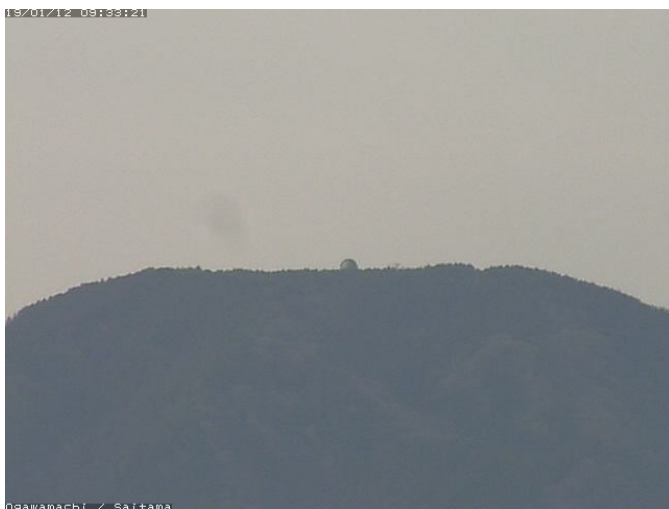
田中 千尋 Chihiro Tanaka

月の満ち欠けを基準とした「陰暦」では、新月(月齢0の月)の日を「一日」とした。「月の始まり」という意味で、「月立ち(つきたち)」と呼んだ。太陽暦を使うようになった現在でも「一日」を「ついたち」と呼ぶのは、その名残である。このことは「チョコちゃん」も知らないかも知れない。

新月(月齢0の月)は「一日月」だが、それは日食の時以外は、見ることも撮影することも不可能だ。しかし、翌日の「二日月」(月齢1の月)は、条件がそろえば、観測が可能である。



まずは、西の空に障害物がなく、開けている観測点が必要だ。幸い、埼玉県小川町に私が設置した観測カメラは、その条件に合う。遠くに小川三山が見えるが、ちょうどそのあたりに、太陽や月も沈むのが見える。



写真は、小川三山の一番左の山(堂平山)をズーム撮影したものだ。山頂の突起は、「元東京天文台堂平観測所」の望遠鏡ドームだ。ここまでズームできる性能だが、実際はもっと望遠にすることも可能だ。この観測カメラは、ズーム、画角、露出などを、すべて東京から遠隔操作ができるところが優れている。



月もよく写る。写真は「六日月」(月齢5の月)だが、明暗境界線にクレーターも写っている。解像度は良いとは言えないが、この性能なら「月齢1」の月もとらえることができるかも知れない。



部分日食の日が「月齢0」(新月)、その翌日の1月7日が「月齢1」だ。シミュレーション・ソフトは、観測地から見た地形も表示できる。「月齢1の月」は、観測地(小川町市街)から見ると、ちょうど「笠山」の山頂付近に沈むことがわかった。笠山山頂を目標に月を探せば良い。果たして発見できるだろうか?